

おわりに

検討会・ワーキンググループでは、看護系大学や学校養成所の教育者、様々な規模の医療施設の看護管理者、研究者、医療関係者、医療関係団体、マスコミ関係者等の幅広い分野の関係者の参画の下に、国民の期待に応える看護の提供のために必要となる新人看護職員の研修のあり方について議論を重ねてきた。

今後、本報告書の内容が関係者に広く周知され、全ての医療機関で新人看護職員が一定の新人看護職員研修を受け、看護の質が保証されることは、医療関係者のみならず国民全ての願いである。

その実現に向け、国は研修体制の整備状況に応じた病院の評価等、新人看護職員研修に関する支援の充実を図ることが必要である。

専門職能団体において、現在実施されている新人看護職員及び指導者等を対象とした研修が今後も継続して実施されることが望まれる。

学術団体には、新人看護職員研修に関わる研究を推進し、研修方法等について科学的根拠に基づいた情報を提供することが期待される。

看護師等学校養成所においては、臨床現場で求められる看護実践能力に関する情報を常に収集し、看護学生への教育に活かすことが必要である。このため、専任教員は実習施設等の新人看護職員研修に積極的に関わる必要がある。

なお、新人看護職員研修においては、指導者、看護管理者が果たす役割が重要であり、その資質向上に向けた取組も必要である。

さらに、今後、在宅医療・訪問看護の充実を図るために、将来、訪問看護師として活躍することを希望する新人看護職員については、様々な疾病、状態の患者の看護に対応できるよう、訪問看護師としての看護実践能力を開発するための研修プログラムを検討する必要がある。

以上、新人看護職員研修の現行の仕組みの下での充実策を述べたが、看護職員は24時間、医療サービスの最前線に携わる者として、新人であろうとも安全・安心の医療提供に責任を持たなければならない。その責任を果たしていくためには、国は新人看護職員の研修の制度化に向けた検討を今後も継続して行う必要がある。

委員名簿

「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」

氏 名	所属機関・・ 役職
石 垣 靖 子	東札幌病院副院長・看護部長
○井 部 俊 子*	聖路加看護大学教授
川 村 治 子	杏林大学保健学部教授
瀬戸山 元 一	高知県・高知市病院組合理事
高 田 早 苗*	神戸市看護大学教授
高 橋 真理子	朝日新聞論説委員
竹 内 美恵子	徳島大学医学部保健学科教授
西 澤 寛 俊	(社) 全日本病院協会副会長
野 地 金 子	北里大学病院教育看護科長
廣 瀬 千也子*	(社) 日本看護協会常任理事
星 北 斗	(社) 日本医師会常任理事
正 木 治 恵*	千葉大学看護学部教授
宮 城 征四郎	臨床研修病院群プロジェクト群星沖縄臨床研修センター プロジェクトリーダー兼臨床研修センター長
村 上 睦 子*	日本赤十字社医療センター看護副部長
山 田 百合子*	国立病院東京災害医療センター附属昭和の森 看護学校教育主事
山 本 浩 子	東京都立駒込病院看護部長

○印は座長、*印は起草委員会委員を示す。(50音順、敬称略)

「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会ワーキンググループ」

新人看護職員到達目標作成ワーキンググループ

市川 幾 恵	昭和大学病院看護副部長
小澤 三枝子	国立看護大学校助教授
坂田 三 允	群馬県立精神医療センター看護部長
佐藤 八重子	国家公務員共済組合連合会虎の門病院看護部次長
島田 三恵子	浜松医科大学医学部看護学科教授
辻 順 子	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター 愛育病院看護部総務・教育担当師長
野地 金子	北里大学病院教育看護科長
萩原 綾子	神奈川県立こども医療センター小児看護専門看護師
山口 祐子	恩賜財団社会福祉法人済生会東京都済生会向島病院管理看護師長
山下 美智子	筑波メディカルセンター病院看護部長
山田 百合子	国立病院東京災害医療センター附属昭和の森看護学校教育主事
横井 郁子	東京都立保健科学大学講師

新人看護職員研修指導指針作成ワーキンググループ

石垣 靖子	東札幌病院副院長・看護部長
黒田 久美子	国家公務員共済組合連合会平塚共済病院教育担当師長
坂本 すが	NTT 東日本関東病院看護部長
佐藤 エキ子	聖路加国際病院副院長・看護部長
中西 貴美子	三重大学医学部看護学科講師
正木 治 恵	千葉大学看護学部教授
村上 睦子	日本赤十字社医療センター看護副部長

(50音順、敬称略)